

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 4



発行日：平成 27 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 27 回山部会WGを開催しました！

8 月 21 日(金曜日)に第 27 回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 8 月 21 日(金) 14 時 00 分～17 時 30 分

場所：岡崎市ぬかた会館(2 階 2～3 会議室)

参加者：16 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集作成について、年度内に 20 件以上の活動団体(川・海の団体も含む)への聞き取りとレポート作成を行います。取材先の候補は現時点で 23 団体となっています。今後のスケジュール案は以下の通りとなっています。

- 1) 取材先の確定(～8 月)
- 2) 取材者の募集、確定(～9 月上旬)
- 3) 取材者と取材先のマッチング(～9 月下旬)
- 4) 取材(9 月下旬～11 月)
- 5) 取材者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求(12 月～3 月)

また、本日は取材者の立候補について、多くの方のご協力をお願いしたいと思います。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、本日は岡崎市等の取り組みを 3 点紹介します。

①額田木の駅プロジェクトについて

→木の駅プロジェクトは、間伐材等を市場価格よりも高く買い取り森林整備を促進するのが目的です。岡崎市では、額田地区桜形町において平成 27 年 5 月 15 日(金)に木の駅プロジェクトが始まりました。木材の取引における対価は、現金ではなく、地域の商店でしか利用できない地域通貨券(森の健康券)を支払うことで、地域経済の活性化を促します。

開駅時点での出荷登録者は 50 名を越え、地域通貨券が使える登録商店も 46 店舗が加入しており、地域からも高い期待と関心が寄せられています。また、現時点の出荷数量は 490t で、市助成予算 840t の 58%に達しており、好調なすべり出しとなっています。

②岡崎市水循環推進協議会「緑のダム部会」について

→岡崎市では「岡崎市水を守り育む条例」に基づいて健全な水循環に関する基本方針、目標を定めた「水環境創造プラン」を策定しており、その進捗管理や健全な水循環に関する市長諮問について調査、審議するための機関として「岡崎市水循環推進協議会」が設置されています。今回、この協議会に対し、水量に関する重点施策の「再構築」について、市長から諮問されたため、その検討部会として蔵治先生を部会長とする「緑のダム部会」を設置しました。

③平成 27 年岡崎木こり塾について

→「自分の山を整備したい方」「ボランティア活動として、人工林の整備を目指す方」を対象に、人工林間伐基礎講座と人工林間伐実践講座を行います。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



本日は、木づかいライブ・スギダラキャラバンについて、安城市で開催された「動く木のおもちゃと木のある暮らしのアイテム展」の様子、「流域ものさし」の材料調達方法、今後開催する「あそべるとよた DAYS」、根羽村木材を活用した「どこでも根羽スギ物置き」を紹介します。良いアイデアがありましたら、ご意見をお願いします。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 昨年は3人組で3団体ほどを取材し、そのうち1団体をレポーターとして担当した。今年を取材方法はどのような仕組みで行うのか。(浅田)
 - ▶ 今年度も去年と同様の形態をとるものと考えている。(蔵治)
- ・ 皆さんに取材者としての希望を伺いたいと思う。昨年は、岡崎市環境部からも2名参加いただいた。今年も参加いただけるか。(蔵治)
 - ▶ 持ち帰って検討したい。(井上)
- ・ 事務局補佐からの参加も考えている。(石原)
 - ▶ 昨年も事務局補佐の協力があつたと記憶している。是非、お願いしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<①木の駅プロジェクトについて>

- ・ 好調なペースで出荷されているが、出荷規格(末口10cm以上、長さ2m以上)の条件は大変かと思う。(今村)
 - ▶ 出荷された490tのうち半数以上プロの出荷者である。自伐林家10t、20tと出荷しているが、機械や重機を持ち合わせない素人山主にとって、搬出運搬手段が課題である。(唐澤)
- ・ 岡崎市からの補助金制度にも限りがあるので、小さくても良いので、額田に合った持続可能な仕組み作りが必要だと思われる。(浅田)
 - ▶ 地域外のボランティアが山に入れる仕組みが欲しいという意見は前回の会議でも出ている。丹羽さんがいう「山のお見合い」、すなわち自分ではできない山主と山を持たず林業に関わりたいボランティアをマッチングして、木の駅に材を搬出することで、多少の経費削減につなげるような仕組みを作りたいと考えている。(唐澤)
- ・ これまで、地域外に買い物に出ている人が、この地域通貨券を利用することにより戻ってきたと聞く。そのため、ゆくゆくは岡崎の街中で買い物をしている人々を、この地域に呼び戻すことができれば良いと考えている。(山田)
- ・ 矢作川流域では岡崎、豊田、恵那、根羽と流域を網羅する形で「木の駅」が動いている。(蔵治)

<②岡崎市水循環推進協議会(緑のダム部会)について>

- ・ 過去に愛知県が間伐を行っており、当時の県職員に森林の水源涵養機能の科学的検証を求めたが、具体的な回答がなかった。今後の部会では、矢作川流域に1つのモデルを設定して対策を行うことで、その間伐などの効果を科学的に見える化してはどうか。その結果を山の人々が認識し、街の人に見せることが大切である。(荻野)
 - ▶ とても大事な意見である。荻野さんの子どもの頃に比べ、明らかに水が減ったなど思える川が額田の上流に存在するのか。(蔵治)
 - ▶ 岡崎市北部の鍛笠町内を流れる乙川では、明らかに水が減ったし川幅が狭くなった。(荻野)
- ・ 水源涵養機能を産業とは別の立場で評価する岡崎市の取り組みは、日本全国でも例がなく、先駆的で素晴らしいものであるため、全面的に協力したいと考えている。(蔵治)

<③平成27年岡崎木こり塾について>

- ・ 受講者は山主が多いのか、ボランティアが多いのか。(浅田)
 - ▶ 山主からボランティアまで、幅広く参加している。(唐澤)
- ・ 講座終了後、既存の団体を紹介すると明記しているが、既存の団体に突然入るのはハードルが高いと思われる。そこで、受講した同期で新たな団体を形成してはどうか。たいてい受講者のうちの1人は山主がいて、その山主の土地を同期で管理しようという流れになることが多い。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 安城市と根羽村は、水源の森という全国初の森林整備協定を結んでいる。(今村)
- ・ 二つの自治体は距離が離れているにも関わらず、上流域と下流域のつながりが保たれている。安城の小学生が根羽村で間伐体験を行っている。明治用水の初代の理事長さんの考えは「水を使う人は、水を作る人のことを考えなさい」という100年以上前の教えであるが、今でも受け継がれている。(野村)
- ・ かつて伊勢湾台風や三河地震が起こったときに、下流域の人が山に木を買いにきたという話を聞いている。今回の安城市と根羽村の関係はそれを思い出させるものであり、今後の展望に光が見える。(齋藤)

今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会WGは、9月25日(金)~26日(土)東幡豆(海部会との合同)にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

